

はじめに

二〇〇〇（平成一二）年現在、名古屋大学には一万五〇〇〇人以上の学生が学んでいます。そのうち学部学生のおよそ七〇〇〇名が名古屋大学体育会の会員です。そして一〇五二名が運動部に所属し、スポーツ・運動で汗を流しています。体育会運動部には、スポーツを強化する私立大学が増える昨今、東海地方の一部リーグに所属し、全国的な大会に出場する学生もいます。しかし運動部に所属する学生の減少や、多様化するスポーツのニーズに施設が不足する事態もおこっています。

本学では入学手続きの際に「地獄の細道」とよばれる通路を歩きます。そこで会費を支払い体育会会員となります。また学生会館二階の体育会室でも手続きができます。体育会運動部員だけが体育会会員と考えられがちですが、多くの学生が体育会会員です。

本書では名古屋大学の前身校である高等教育機関のスポーツ活動と、戦後の名古屋大学の体育会について紹介したいと思います。そして大学紛争や大衆消費社会の到来とともに変化する学生の体育会活動にもふれたいと思います。最後に、変容する名古屋大学と将来の大学スポー



愛知県立医学専門学校の運動会（附属図書館医学部分館所蔵）

ツについても読者の皆さんと一緒に考える
ことができればと思います。

一 戦前の高等教育機関とスポーツ

◆ 欧米スポーツ文化の輸入

日本のスポーツは、開国以来その多くが、在留外国人や招聘外国人^{しょうへい}、帰国留学生によって欧米から輸入されました。欧米のスポーツ文化は、高等教育機関でいち早くふれることができました。高等教育機関の卒業生は、スポーツ文化を赴任地へ、特に中等・初等教育機関へと伝えていきました。スポーツ活動は、一九世紀後半から二〇世